

## 10. 内水氾濫の特徴と避難するときの心得は？

内水氾濫の被害は、主に都市部やその周辺地域において発生し、集中豪雨や排水設備の能力を超えた降水によって引き起こされます。ここでは、内水氾濫の被害の特徴と避難時の心得について説明します。

### ①内水氾濫の被害の特徴

**氾濫範囲：** 内水氾濫は多くは局所的範囲で発生しますが、しばしば地盤沈下域、ゼロメートル地帯などの低標高部の広範囲な地域でも発生することがあります。このときの浸水深は比較的浅いですが、このような低標高のエリアにある多くの住宅や商業施設、交通インフラなどが被害を受けることがあります。

**水が長時間滞留：** 排水設備が雨水の量に対応できない場合、浸水した水が長時間にわたって滞留し、停電や断水などの生活機能の停止を引き起こします。

**地下施設の浸水：** 地下鉄や地下街、地下駐車場などの地下施設が浸水することがあり、人々の安全や都市機能に大きな影響を及ぼします。

**交通機関の混乱：** 道路や鉄道の浸水により、交通機関が麻痺し、人々の移動や救助活動が困難になることがあります。

### ②避難の心得

**早めの行動：** 気象情報をこまめにチェックし、洪水警報や避難勧告が出されたら、すぐに安全な場所への避難を開始します。

**高台への避難：** 可能であれば、高台や二階建て以上の建物の上層階など、高い場所へ避難することが重要です。

**避難経路の確認：** 事前に複数の避難経路を確認し、水路沿いや低地を避けるルートを選定します。

**避難所の情報を把握：** 自宅周辺の避難所や避難場所の情報を把握し、避難勧告が出た際に迷わず行動できるようにしておきます。例えば、避難所が開設しているのかなどの情報も WEB や電話などで確認しておくことも大事です。

**非常用持ち出し袋の準備：** 飲料水、非常食、懐中電灯、予備の電池、防寒具、必要な医薬品など、避難時に必要な物資をあらかじめ準備しておきます。

**情報の共有：** 家族や近隣住民と情報を共有し、助け合いながら避難することが重要です。

内水氾濫は予測が難しく、またポンプの故障などで急激に状況が悪化することがあるため、常に最新の気象情報に注意を払い、危険を感じたら迅速に行動することが肝心です。